

ご 挨拶

第 40 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会会長
埼玉医科大学小児科
菊池 透

このたび、第 40 回年次学術集会会長を拝命いたしました埼玉医科大学小児科菊池透でございます。小児科が担当するのは、第 35 回学術集会（会長杉原茂孝教授）以来 5 年ぶり、埼玉医科大学小児科が担当するのは、第 26 回学術集会（会長雨宮伸教授）以来 14 年ぶりとなります。伝統のある日本糖尿病・妊娠学会のさらなる発展の一助となるように精一杯準備してまいりました。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



さて、本学術集会のテーマは、「小児・思春期から始める母児の healthy life cycle」といたしました。小児・思春期の肥満、糖尿病は、妊娠中の糖代謝異常を惹起し、分娩後の母体糖尿病や次世代の肥満、糖代謝異常の要因となります。しかし、小児・思春期から食育や肥満予防対策をすることで、妊娠中の糖代謝異常を予防し、さらに、母体と次世代の肥満、糖代謝異常を予防できると考えられています。また、糖尿病女性のプレコンセプションケア、妊娠中の適切な糖尿病管理も児の肥満、糖尿病代謝異常の予防に繋がります。このような healthy life cycle を実現させることが、本学会の活動成果の社会実装と考えております。

海外招聘講演は、HAPO study での児の Follow-up Study を牽引された William L. Lowe Jr. 先生 (Northwestern University)、特別講演は、益崎裕章先生 (琉球大学) にご講演をいただきます。4 つのシンポジウム①日本糖尿病・妊娠学会の成果の社会実装、②ペダーセン仮説とバーカー学説、③糖代謝異常妊娠の最善の予後目指した体重管理、④1 型糖尿病女性が安心して妊娠を迎えるための先進医療器機の活用、5 つの教育講演、今回から始まる日本小児・思春期糖尿病学会 & 日本糖尿病・妊娠学会交換レクチャーを行います。また、一般演題に 58 もの演題を頂戴いたしました。また今回からメディカルスタッフ賞の表彰もいたします。

ご参加の皆様、共催企業の皆様からのお力をいただかなければ、第 40 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会の盛会はあり得ません。是非、多くの皆様に大宮にお越しいただき、学術集会を、楽しんでいただければと存じます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。